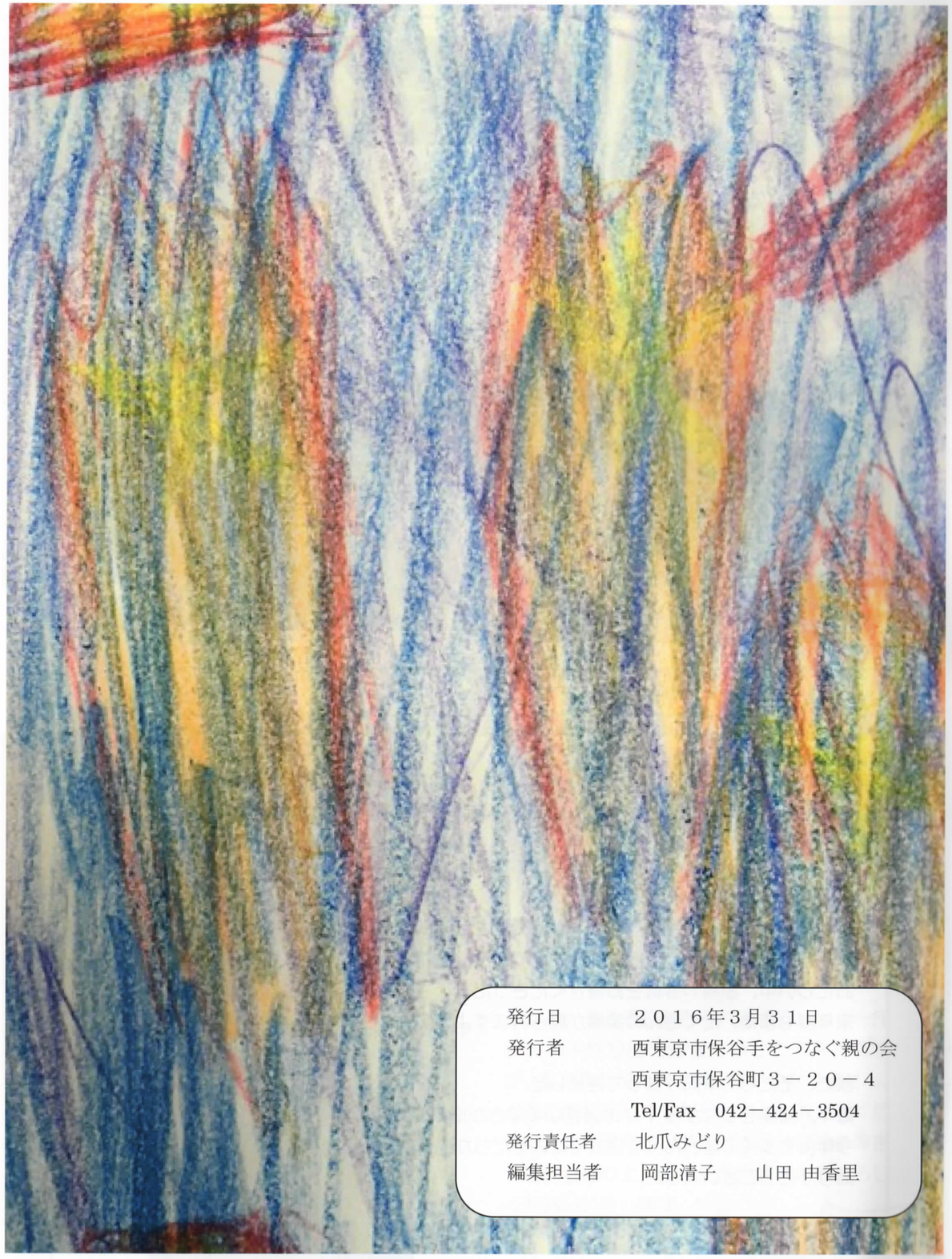


発行日　　２０１６年3月３１日
発行者　　西東京市保谷手をつなぐ親の会
西東京市保谷町３－２０－４
Tel/Fax　042－424－3504
発行責任者　北爪みどり
編集担当者　岡部清子　　山田 由香里

そだち

平成２７年度号

イラスト　社会人　大河原健亮さん

「そだちによせて」

西東京市保谷手をつなぐ親の会は今年、55 年目を迎えます。親の会は「東京都知的障害者育成会」の支部として障害を持つ子供たちの保護者と活動を支援して下さる賛助会員の皆様によって構成されています。

発足当時、教育や就労など障害児・者を取りまく環境はとても厳しいもので、親たちは国や都や市に声を挙げ、心障学級（現・特別支援学級）の設置や福祉作業所の開設に奔走してきました。先輩方のそうした地道な活動により基盤が整えられ、「障害を持つ子供たちが一人一人の人権と意思を尊重されるなかで心身ともに健やかに育成されること、ひろく市民からの理解を得ながら個々に合った社会参加を果たすこと」を指針にこれまで活動を続けています。

そして今、障害のある子供たちは企業就労や福祉就労、介護事業所、施設など様々な場所で仕事に取り組み、自立に向けた支援を受けています。個々の歩みの早さは違いますが、それでも社会の一員として一歩一歩、地道に努力を続けているのです。

それぞれの場所で頑張る子供たちの様子や、支えて下さっている方々の取り組み、また一人一人の親の思いを、会員相互で共有し、経験を交流することで、子供たちへの今後の社会生活に活かしていくことを願っています。また、私達と同じ立場の方に限らずこの冊子を手にしていただいた方に、障害があっても前向きに生きているのだということを「そだち」を通じて少しでも感じていただければ幸いです。

北爪　みどり

行ってみよう！保谷庁舎内売店

27年度版

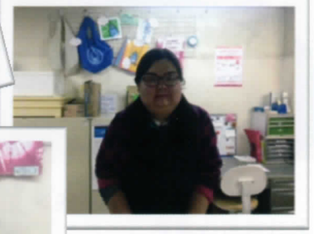
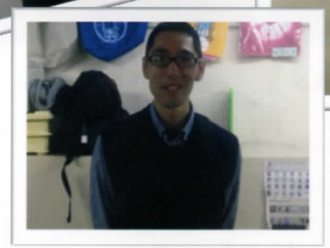
「売店運営にあたって望むこと」

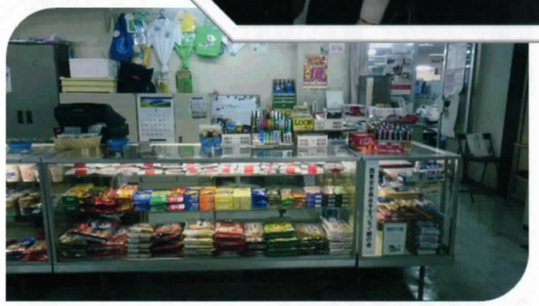
障害者団体の障害のある方たちの働く場として、役所から委託を受け運営しております。
親の会の会員の方々の子の就労の需要がなく、現在は 1 名のみです。やむおえず他団体の方を 2 名受け入れている現状です。売店の存在意義からも、出きる事なら親の会の子供たちの働く場・実習の場として活用していただきたいと考えております。
仕事は、昼時が一番忙しいですが、あとは商品補充・清掃・接客で、ときには可愛いお客様や人生の先輩たちとの有意義な時間を過ごすこともあり、楽しい接客をさせて頂いております。

「運営をしていくうえでの苦労」

できるだけ他より安く提供したいと思い、スタッフは仕入先を選び購入しており値上げは極力しないよう努力しておりますが、消費税増税や原材料値上げの為、定価をあげなくてはいけないのが心苦しいです。

いつも笑顔で迎えてくださる スタッフの皆さん！



親子バスハイク

♪世界にひ～とつだけの麺！をテーマに、2016年3月12日(土)第7回親子バスハイクで、横浜のカップヌードルミュージアムとキリンビール横浜工場へ行ってきました。32名の申し込みがありましたが、インフルエンザのため一家族が残念ながら不参加となり、16家庭とヘルパーさんで29名の参加でした。

こもれびホール前から出発したバスは順調にみなとみらいに到着。早めの昼食を聘珍楼 Sario で取り、その後カップヌードルミュージアムでマイカップヌードル作りを体験しました。 カップのデザインをペンで描いたら、4種類のスープからひとつ、12種類の具材から4つを選びますが、その組み合わせはなんと5460通り！　　今回一番多かったのはオーソドックスな醤油味で、具材で一番人気なのはひよこちゃんナルトでした。

次のキリンビール横浜工場では、見学前にKIRINの黄色いジャンパーを着て、大きなビールのトリックアートの写真を撮りました。皆さん、とても似合っていました。見学は約40分、麦芽の試食や一番絞り麦汁の飲み比べや、嵐のメンバーの映像ありで、飽きる事なく終わりました。そして見学の終わりに、お楽しみの試飲タイム。皆、待ってましたとばかりに出来たてのビールで乾杯しました。発売前の新商品の試飲もできて、得した気分になりました。未成年は午後の紅茶などのキリンの商品をいただきました。 そして、工場限定土産を購入し、バスは帰途につきました。

帰りの車内では、カップヌードルデザイン選手権を行なったり、景品をかけたジャンケンゲームで大人も子供も関係ない白熱した戦いが繰り広げられ(笑)、カラオケ大会で盛り上がりました。

みんなで笑って歌って過ごした一日が、皆さんの明日への活力になりますようにと願いながら、「ア～ソレソレ！」と合いの手を入れる私でした。　　荻野由香

親の会年間活動

＊親の会総会、役員会
＊育成会各会出席
＊障害者福祉をすすめる会役員・運営委員会出席
＊喫茶コーナー「ふれあい」運営委員会出席
＊社会福祉協議会、ゆめこらぼ等、
　地域団体との連携
＊障害福祉課長との懇談会開催

＊田無特別支援学校夏祭り　7/11土）

7月11日（土）田無特別支援学校で開催された夏まつりに参加しました。
喫茶コーナー「ふれあい」との共同出店で飲み物販売を行いました。
親の会と地域の方々との大切な交流の場となっています。

＊学齢の懇談会　7/16（木）

7月16日(木)田無のファミリーレストランにて、学齢の懇談会を行いました。
4人の参加があり、全員が高等部2年だということで、話題はすぐ目前に迫っている就労や卒後の生活についてでした。
市内に事業所が少ないことや、余暇支援のことなど、学校を出た後の受け皿についての心配の声が多数聞かれました。　　荻野

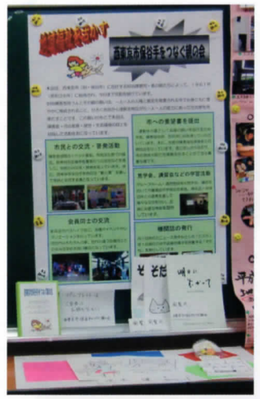
＊スポーツを楽しむつどい　10/4（日）

１０月４日（日）西東京市障害者福祉をすすめる会主催「スポーツを楽しむつどい」が保谷小学校校庭にて開催されました。
当日は晴天に恵まれ、参加された皆さんがスポーツを一日ゆったりと楽しむことができました。
また、今年度は田無手をつなぐ親の会の皆さん、くるみ学級の皆さんも新たに参加され、大いに盛り上がって幕を閉じました。
会場で保谷庁舎売店による飲み物販売も行われました。

＊市民文化祭　10/３１、１１/１・２

第 15 回　西東京市市民文化祭（西東京市障害者福祉をすすめる会主催）

平成 27 年 10 月３１日、11 月1、２日に柳沢公民館第 3 会議室の展示の部に参加しました。親の会の他に 18 団体が展示をしており、会場内は支援学級の生徒の作品や各団体の活動パネルが貼りだされました。親の会としては会員のお子様の作品、会の紹介、そだちや記念誌を置きました。観賞された方々は、ゆっくり、じっくり観て微笑んだり、係に質問されたりと興味を持ってくださいました。私達の活動が、地域のたくさんの方々に知って頂く良い機会となりました。



<展示参加団体>１８団体(内学校２校)

西東京市障害者福祉をすすめる会・喫茶コーナーふれあい・就労支援センター一歩・どろんこ作業所・富士町作業所・ほうや福祉作業所・コミュニティルーム友訪・生活介護事業所くろーば・おもちゃ図書館・はっきねっと・保谷身体障害者協会・小鳩会・西東京市保谷手をつなぐ親の会ひいらぎ(ちゃれんじど)・児童発達支援事業みらい・療育型児童デイサービスささんか保谷中学のびる学級・中原小学校つくし学級

＊障害者週間アスタイベント　１２/４(金)

障害者週間期間中の 12 月４日(金)田無のアスタにて市主催によるイベントが開催されました。毎年、地域の障害者の団体と田無特別支援学校などが、パネルの展示や手作り品の販売をしていますが、親の会が参加をするようになって今年で５年目を迎えました。参加２年目から石鹸のデコパージュ（花石鹸）を作って販売を始めましたが、今年はさすがにもう売れないだろう、と話をしていたのですが、お陰様で今年度も 100 個の完売となりました。

しかし、そろそろ飽きられる頃でしょう～何か次の手作り品を考えたいところなのですが、なかなか良いアイデアか見つかりません。どなたかご存知でしたら是非とも教えてください。次年度も参加予定です。共にこの障害者週間を盛り上げてくださいますようよろしくお願いいたします。片山

＊新年会　2/25（木）

2016 年２月 25 日(木)12 時 30 分～14 時 30 分まで、田無の「日本海庄や」にて新年会が行われました。この日は 10 時から、田無の「きらっと」にて講演会(障がいのある方のライフプラン・お金とリスクのはなし・ライフステージに沿ったライフプランの概要・ぜんち共済株式会社の富岡竜一氏)があり、その後の新年会だった為か、18 名の参加がありました。そのうちの６名の方々は初めて参加をしてくだったと云うことで、大変嬉しく思いました。(＾◇＾)

お食事の後にはじゃんけんゲームをいたしました。ささやかですが旭製菓のかりんとうを景品として出させていただきました。

今後も情報交換の場としても活用していただきたく、多くの方々のご参加をお待ち致しております。片山

【編集後記】

桜が早く咲き始めたと思ったら、花冷えで足踏み…。でも、嬉しいことに必ず満開は訪れてくれます。
子供たちも、それぞれに時期は違うかもしれませんが、同じように個性的な満開をみせてくれるので楽しみです。
今年度も企画・運営、そして参加してくださった多くの方々のおかげで、充実した活動をしてくることができたのだと、紙面を見てあらためて感じます。
お忙しい中、原稿や写真をお寄せくださったみなさまに、こころより感謝申し上げます。
来年度もまた、たくさんの笑顔が見られますように。（O）

また、そだちの季節が巡ってきました。
毎年、編集をしながら１年の過ぎゆく早さが増しているように感じています。
今年度も多くの皆さんのご協力でこのそだちが発行できたことに心からの感謝を申し上げます。
ありがとうございました。　（Y）